

# はしがき

## ■編集の趣旨

この《10日で確認 新チェックノート》シリーズは、国語の主要分野について、短期間で集中的に知識の整理・確認をすることを目指して編集しました。

したがって、受験直前における知識の最終確認、少し早めの苦手分野の克服などに使用すると効果的です。

本書はこのシリーズの一冊として、「古文」全般の最重要事項をまとめました。

えを書いてみて理解度を確認しながら、知識を定着してゆきます。その際、チェック欄(□印)を色分けするなどして上手に使いましょう。

4 下段には項目ごとに、解説・補足やヒントなどを書いておきました。一通り目を通して、より確実に知識を積み重ねてください。

5 付録として、「まぎらわしい語の識別一覧」を付けました。文法問題として頻出事項などで、これも合わせて理解しておく必要があります。

6 別冊解答書には、【解答】のほかに、【解説】と問題文すべての【口語訳】とを付けました。有効に活用してください。

本書によって、古文の重要基礎知識が確実に身に付くことを期待しています。

編著者

## ■本書の特長

- 1 学習日ごとにテーマを設けて、一日分を4ページに収めました。集中して学習するのに適当な分量と思われれます。
- 2 上段には小見出しを付け、記憶すべき事項を一目で分かるようにしました。
- 3 中段は問題形式になっているので、必ず答

# 《目次》

第1日	古典常識	4
第2日	係り結び・修辭法	8
第3日	重要単語(1) 名詞・動詞	12
第4日	重要単語(2) 形容詞・形容動詞	16
第5日	重要単語(3) 副詞・慣用句	20
第6日	過去・完了／断定・伝聞推定・打消の表現	24
第7日	推量・意志／受身・使役の表現	28
第8日	順接・逆接、仮定・確定／疑問・反語の表現	32
第9日	願望・禁止／感動・詠嘆、強意の表現	36
第10日	敬語法	40
付録	まぎらわしい語の識別一覧	44

① 陰暦の月の読み方

問 上段の見出しに従って答えよ。

□ 一月	二月	三月
四月	五月	六月
七月	八月	九月
十月	十一月	十二月

↑月の異名の漢字表記は、次のとおり。

睦月・如月・弥生 ……(春)  
 卯月・皐月・水無月 ……(夏)  
 文月・葉月・長月 ……(秋)  
 神無月・霜月・師走 ……(冬)

② 十干の読み方

□ 甲	乙	丙	丁	戊	己
庚	辛	壬	癸		
子	丑	寅	卯	辰	巳
午	未	申	酉	戌	亥

↑「き・ひ・つ・か・み」と覚え、そのそれぞれに「え・」と「を」付ける。陰陽五行説の「木・火・土・金・水」と「兄・弟」に基づく。

③ 十二支の読み方

□ 子	丑	寅	卯	辰	巳
午	未	申	酉	戌	亥

↑この十干と十二支を順に組み合わせた六十干支で、年・月・日を表した。たとえば、「壬申の乱」とは「みずのえさる」の年に起きた乱の意。

④ 十二支による時刻

□ 子	丑
午	亥
卯	辰巳
戌	亥

↑定時法では現在の二時間刻みになる。「子」が午後十一時から午前一時まで。以下同様に二時間ずつ。

⑤ 十二支による方角

□ 卯	午	辰巳	戌亥
-----	---	----	----

↑子午線とは地球の南北を通る線であることを思い出そう。また例えば北東などは、二つを組み合わせて丑寅などとする。「文字の表記では、順に

艮・巽・坤・乾となる。

⑥ 月に関する語

□ 望月	立待月
夕月夜	有明月

問 空欄に適語を入れよ。

□ 三代集≡古今集・「レ・拾遺集

四 鏡≡大鏡・今鏡・水鏡・「レ」

六 歌仙≡僧正遍昭・「レ」・文屋康秀

喜撰法師・「レ」・大伴黒主

⑦ 主な名数

↑「三大歌集」(万葉集・古今集・新古今集)と混同しない。  
 ↑歴史物語には、この「四鏡」以前に『栄花物語』がある。  
 ↑最初の空欄には『伊勢物語』の「昔男」のモデルとされる人物、後の空欄には古今集を代表する女流歌人が入る。

⑧ 内裏だいり

紫宸殿 左近の桜 右近の橘

清涼殿 昼の御座 殿上の間

⑨ 寝殿造り

寝殿 北の対 遣水

渡殿 寶子

⑩ 貴族の身分

上達部 殿上人 地下

左大臣 藏人頭 頭中将

大宰帥 受領 守

⑪ 后妃・女官

皇后 中宮 女御 更衣

御息所 尚侍 典侍 命婦

**問** 読み方を答えよ。また、およその位置を確かめておこう。

**問** 読み方を答えよ。また、意味内容を確かめておこう。

↑紫宸殿が内裏の正殿で、中央に位置する。その西側に清涼殿があり、ここが天皇の常の御座所。

↑寝殿は貴族の邸宅の表座敷。北の対はその北の建物。正妻が住み、北の方と呼ばれた。

↑上達部は三位以上。殿上人は四位・五位と六位の藏人。地下はそれよりも下位の貴族。

↑中宮は皇后の別称だったが、一条天皇の時、定子が中宮だったところに彰子も入内して中宮となったため、定子は皇后となり、別のものとなった。

⑫ 服飾関係

唐衣 裳 小袷 汗衫

束帯 衣冠 直衣 狩衣

**問** 読み方を答えよ。また、どんな服装か確かめておこう。

↑一行目は女性用、二行目は男性用。

⑬ 襲の色目かほねいろめ

紅梅 若草 早蕨 (春)

杜若 花橘 葵 (夏)

紫苑 女郎花 桔梗 (秋)

枯野 移菊 椿 (冬)

**問** 読み方を答えよ。また、配色を確かめておこう。

↑衣服の表と裏の配色、また重ね着した時の上と下の配色をいう。男女とも年齢や季節などにより細かいきまりがあった。配色まで覚えるにはおよばないが、平安朝の繊細な美意識の一端に触れておこう。

⑭ 調度

御簾 几帳 屏風 折敷

破子 高坏 松明 紙燭

**問** 読み方を答えよ。また、どんなものか確かめておこう。

↑今はほとんど使われないものばかりだから、イメージだけは描けるように。